

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 日本麺用小麦「さとのそら」の後継品種の選定	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成26年に「農林61号」の後継として、県奨励品種に日本麺用小麦「さとのそら」が採用された。「農林61号」に比べ、「さとのそら」は小麦縮病抵抗性に強く、収量及び耐倒伏性に優れており、平成30年産の県内作付面積は厚木、藤沢、秦野を中心に17haとなっている(全農かながわの種子配布実績より換算)。しかし、製麺加工している実需者からは、「さとのそら」は「農林61号」より味と香りが劣っているとの評価が多いため、集荷している農協は、販路拡大が難しい状況となっている。 また、他県でも同様に「さとのそら」の評価が低いため、種子生産を県外委託している本県では、種子の安定供給の点から、このまま生産を奨励していくのに厳しい局面を迎えている。 そこで、「さとのそら」以上に栽培性が優れ、「農林61号」以上に実需者からの食味評価が高く、種子の安定供給ができる日本麺用小麦の品種選定をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内    ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター	担当部所 生産技術部野菜作物研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 麦類奨励品種決定調査事業	
対応の内容等 現在、本県に限らず全国的にも日本麺用小麦として、味や香りが「農林61号」と同等以上の品種が求められていますが、該当する品種が無いのが現状です。国、県等研究機関により麺用、パン用の小麦品種育成が行われており、現在実施しております麦類奨励品種決定事業を通じて、国、県研究機関等と情報交換を行った上で栽培試験を行っています。今後も各研究機関と情報交換を行い、また、要望を出して、種子を安定供給できる品種選定を継続して取り組んでまいりますので、平時より栽培試験中の品種・系統に対するご意見を願います。また、奨励品種候補の選定の際は、現地試験、栽培法や加工適性の検討等にご協力ください。	
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内    ④5～10年以内
備考	